

令和6年度事業の実施状況について

1 令和6年度の取り組み状況

利用状況(データは2月末時点)

① 利用状況

部屋	年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
第一会議	R5年度	151	224	122	158	153	122	808
	R6年度	205	177	227	193	157	217	1176
	比較	54	-47	105	35	-4	95	238
部屋	年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
第二会議	R5年度	58	82	63	72	87	79	362
	R6年度	151	149	134	81	65	144	580
	比較	93	67	71	9	-22	65	140
部屋	年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
フリースペース	R5年度	272	612	603	363	276	306	2126
	R6年度	408	480	482	563	381	358	2314
	比較	136	-132	-121	200	105	52	240

年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
令和5年度合計	481	918	788	593	516	507	3,803
令和6年度合計	764	806	843	837	603	719	4,572
前年度比較	159%	88%	107%	141%	117%	142%	120%

- ・上半期と同様、一部の月を除いて利用者は増加傾向にある、地道な広報活動が実を結び始めている。
- ・自主事業への参加者が知人を連れ、打ち合わせに利用してくれるケースもあり、口コミで施設の周知、交流の輪が広がっていくのが感じられる。
- ・施設設備の改善策として、急角度の階段部手すりに滑り止めテープを貼り対策。
館内アンケートとそれに対する当館の対応を「ご利用者様の声」として施設内の壁に掲示し積極的に利用者の意見、要望のフィードバックを徹底した。

令和6年度 第2回木更津市市民活動支援センター運営協議会議題資料

② - 1 各会議室利用件数

部屋	年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
第一会議	R5年度	26	33	18	21	21	16	135
	R6年度	30	29	25	20	21	30	155
	比較	4	-4	7	-1	0	14	20
部屋	年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
第二会議	R5年度	20	21	14	16	23	20	114
	R6年度	37	44	37	23	12	29	182
	比較	17	23	23	7	-11	9	68

年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
令和5年度合計	46	54	32	44	36	53	265
令和6年度合計	67	73	62	43	33	59	337
前年度比較	146%	135%	194%	116%	75%	164%	127%

② - 2 各会議室利用率

部屋	年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月
第1会議室	R5	22.4%	26.6%	20.8%	20.8%	19.1%	13.3%
	R6	25.0%	24.1%	25.3%	18.8%	20.8%	28.1%
第2会議室	R5	18.6%	17.9%	13.1%	14.6%	21.2%	15.3%
	R6	30.7%	30.9%	28.2%	21.5%	9.4%	24.0%
合計	R5	20.5%	22.3%	14.6%	17.7%	20.1%	14.3%
	R6	27.8%	27.5%	26.8%	20.1%	15.1%	26.0%

- ・利用者数と同様に緩やかな増加傾向にある。第二会議室にいたっては30%を超える月もあり、今後も更なる増加を目指せるような管理運営を続けていきたい。
- ・移転により、疎遠になっていた登録団体が利用を再開してくれるなど、新しいみらいラボとしての存在が徐々に周辺地域に浸透しつつあるのを感じる。
- ・登録団体は各々活動時間が決まっているため、周辺企業や他施設をメインで利用している層への周知を広げ、一般利用の更なる増加が見込めるような対策を取ってきたい。

③ 新規登録団体件数

	団体登録数	合計	目標値 (令和5年度は3月末の値)
令和5年度	6	147団体	153団体
令和6年度	6(+3)	159団体	166団体

- ・下半期に新たに3団体が登録された。活動のカテゴリはそれぞれ環境保全、教育、まちづくり。
- ・目標値には届かず。来年度以降は自主事業やボランティア参加などから団体設立に至るようなスキームを構築していきたい。

④ 相談件数

	相談件数	目標値 (令和5年度は3月末の値)
令和5年度	43件	79件
令和6年度	28件(+8)	150件

- ・前回から8件のプラス。目標値には届いていないため、団体登録と同様に施設の存在理由をアピールしていき件数増加につなげたい。
- ・フィールドワークの現地活動にて団体より相談を受けることは増えた。
- ・登録団体より、周知、広報など自身の活動発信について聞かれることが多いので自主事業や運営サービスの面でサポートを厚くしていきたい。

⑤ 自主事業（記載は順不同）

㊦ - 市民協働事業

毎月第2金曜日開催 オレンジカフェ「ゆるる〜む」

毎月第3日曜日開催 本好き集まれ！ビブリオバトル

㊦ - 1 オレンジカフェ「ゆるる〜む」

・参加人数

9月	10月	11月	12月	1月	2月
7名	4名	5名	8名	5名	9名

- アロマセラピストの清水氏と中部包括支援センターの社会福祉士とで三社連携の形をとりオレンジカフェを開催。アロマオイルを使用したハンドマッサージを行い、リラックスした状態で交流を図り、中部包括後援のもと、深刻な悩み相談にも対応していく形をとっている。

回を重ねるごとに着実にリピーターも増え、参加者も安定してきている。

アンケートでの要望で9月より健康体操。12月よりモルック。1月よりイオン薬局お願いして薬についての講話を行ってもらい、いずれもが好評。
満足度の高いサービスが提供できる事業に成長したと言える。

- 今後の課題、改善策

参加者が増えていった場合の座席数や面積。男子トイレが2階にしかない等、設備状の問題がある。パッケージングはそのままに別の施設での開催も考慮したい。

㊦-2 本好き集まれ！ビブリオバトル

・参加人数

9月	10月	11月	12月	1月	2月
6名	3名	6名		8名	9名

■当施設登録団体の「ビブリオの会」と図書館の司書や図書相談員との協働事業。

持ち寄った書籍に対する思い入れを制限時間内にスピーチしてもらい、優勝を決める。単なる本の紹介イベントではなく、司書や相談員の方々にファシリテーターの役割を担ってもらい、各書籍の内容について深く議論、意見交換し、異なる視点や解釈を共有する。ことで生涯学習として、読書について学ぶ機会を提供するのが目的。
参加者が後に団体に加入するなど市民活動を広げる場としても一役かっている。

- 今後の課題、改善策

1年を通して回を重ねたが事業として広がりがないため、企画段階からの見直しを考慮する必要がある。

① - 市民心とからだの健康講座 家族の「困った」依存編

・参加人数

前半 10月16日 11名(オンライン5名)

後半 11月13日 10名(オンライン5名)

■「よろず健康室」より石川氏を講師に招き、主に精神面からくる体調の変化とそのヘルスケアを学ぶ講座。上半期の改善点を踏まえ、対面、オンラインともに、講座の回数を3回→2回に。1回毎の講座時間を伸ばす方法をとった。時間が伸びたことによる参加者の負担増も懸念されたがアンケート結果は良好。「講座の時間が増えたことによって内容の密度が濃くなった」との声も聞かれた。

- 今後の課題、改善策

講師の提案でオンラインでの個別対応を導入したが、あまりにも双方の負担が大きいため再度協議の必要がある。

㊦ - 全登録団体交流会

・参加人数

10月26日 9人

2月16日 7人

■市民活動団体同士の交流を深め、地域課題の共有や情報交易に繋げるための交流会。

第1回は各団体の主な活動内容とその報告。「市民活動を継続していくために」を題材に討論を交わした。

第2回は中心市街地をフィールドワークしながら各々が感じた地域の課題を、配布した「課題ボード」に書きつつ意見交換した。普段会う機会が無い団体同士の交流、別の協働事業につながる機会にもなり有益な時間を提供できた。

- 今後の課題、改善策

より多くの団体に参加してもらうため時間、同日2部構成など日時の調整を考慮する必要性がある。

㊦ - 話し方・プレゼンテーション講座

・参加人数

9月21日 6名 「心の扉を開くコミュニケーション」

2月19日 6名 「人を動かす5つの要素」

■講師にライフコンサルタントの結星蓉子氏を招いて、市民活動における自身の心の中にある思いを相手に効果的につたえる方法をレクチャーしてもらう。

第1回は「自己開示効果」による信頼の獲得と距離感の縮めかた。

第2回は他社に共感を得て共に行動してもらう方法を5つのポイントに分けて学んだ。

アンケートには「具体的な事例が多くて、とても分かりやすかった」

「話し方のコツが理解できた」等、反響は良好だった。

- 今後の課題、改善策

諸事情によりオンラインでの対応が出来なかった。

㊧ - 市民活動スキルアップ講座

・参加人数

11月24日 6名 「チラシの作り方 part2」

2月16日 5名 「オンライン会議ツール活用講座」

市民活動に有用を思える知識やスキルをお互いに学び、市民活動を活性化させることを目的としたプログラム。

11月は教材を使用して広報活動に必要なチラシ作成のノウハウを学んだ。2月は各オンライン会議ツールの紹介と基本操作方法、最後にグーグルチャットにてディスカッションを行った。

高齢化が進む市民活動の界限においてPCを使用したワークショップは好評で頻度をあげて開催してほしいとの声が多数聞かれた。

- 今後の課題、改善策

参加者のレベルに合わせた講座を用意する必要があると考える。

㊨ - SDGs 推進事業

・参加人数

9月28日 3名 「美しき緑の星」

1月19日 10人 「東海岸清掃活動」

■持続可能な未来を目指してSDGs17の項目に沿った事業を開催。

9月はEU圏では上映禁止になっている映画「美しき緑の星」をみらいラボにて上映。

参加人数は少なかったが、鑑賞者の一人から「以前映画館で見てからいつかもう一度見たいと思っていて、それが今日ここで見られて本当に良かった」と感激の言葉を聞くこと

ができた。

1月はNPO法人イルカ計画との協働事業。今回より学生向けにボランティア証明書の発行をするようにした結果。若年層の参加者を増やすことに繋がった。

- 今後の課題、改善策

上半期と同様、SDGsにおける他のカテゴリに沿った事業にも挑戦していきたい。

㊦ - プログラミング体験会

- ・12月14日 「プログラミングをするための環境構築をしよう」
- ・2月5日 「LPを作成してみよう」

■現代においての必修科目になりつつあるプログラミングへの理解、関心を深めてもらうための体験会。下半期はシニアを主な対象に開催。

12月はプログラミングを始めるための環境構築。内容が単調なせいか退屈そうな参加者も見られたが「基礎から学べて良かった」との声も聞かれた。

2月はノーコードツールを使用したランディングページの作成。自身の団体を宣伝するサイトを作成した。最終的には参加者のほとんどがサイトの完成に至り、市民活動へのスキルアップに貢献できたと言える内容となった。

- 今後の課題、改善策

機材を揃え、PCを持っていない層への対応もして参加を促していきたい。

㊧ - 親子のアトリエ

- ・参加人数 2月23日 44人

■親と子のコミュニケーションを深め、家庭環境を豊かにすることを目的とした事業。

2月はEQ絵本講師、個人の市民活動家、地元企業の協力を得て、絵本の読み聞かせ、メッセージカード作り、カゼインプラスチック工作と3つのワークショップを体験してもらった。終了後に渡したオーガニックスイーツも大変喜ばれ人数、内容ともに大盛況のうちに終えることができた。

- 今後の課題、改善策

未就学児～小学生を対象にした事業だったが、急な階段に柵を設ける等、安全対策が十分ではない箇所があった。今後改善していきたい。

㊨ - みなとぐちクリーンアップ作戦

- ・参加人数

9月	10月	11月	12月	1月	2月
1名	1名	1名	2名	2名	14名

■環境美化のために木更津駅西口を中心に行う美化活動。

スタッフのみでの活動が続いていたが、ある団体との話し合いを経て内容を大幅に改変した。開催日時を平日から日曜日に変更、まちづくりのカテゴリに属する団体に参加、協力を呼びかけ学生向けにボランティア証明書の発行を告知した結果、参加者の増加に成功した。最後に次年度につながる新たな展開を得ることができた。

- 今後の課題、改善策

急な参加申し込みの増加にゴミ拾いに使用する道具類やボランティア保険の手続きに手間取る場面があったので今後はあらかじめ想定した事業運びをしていきたい。

㊦ - みらいラボコミュニティ

毎月第2、4木曜日

・参加人数

9月	10月	11月	12月	1月	2月
0	0	0	0	0	0

- みらいラボを周辺住民の交流の場として利用してもらうために上記の日にちで1階フリースペースをワンドリンク無料で解放。個人によるワークショップも自由に開いてもらう。

- 今後の課題、改善策

ワークショップの数も増えず、方針も定まらないため今年度を以て終了。

㊧ - 困りごと解決事業

「地域の困りごと掲示板設置」〔随時〕物品譲渡(交換)1件 活動実施1件

- 館内設置の掲示板を介しての意見や物々交換、情報共有しつつ交流を図ることを目的とした事業。絵本の寄贈が1点。自然保護活動へのボランティア申し込みが1点あった。

- 今後の課題、改善策

内容を他の事業に合併できるものなので今年度を以て終了。

㊨ - ボランティアマッチングプログラム

〔随時〕実績4件

- 施設内掲示板や登録団体向けのメールマガジンにて活動参加推進を目的とした事業を実施。立ち上げたばかりの新団体を同カテゴリの登録団体に紹介。NPO法人を立ち上げたいとの相談者にアドバイザーと法人化している登録団体を紹介等、地域住民と市民活動団体との橋渡しの側面を担っている。

- 今後の課題、改善策

実績数(市民活動の促進)増加のため、もっと積極的に地域住民と交流を図り、状況の把握をしていく必要がある。

㊩ - みらいラボフェスタ

11月3日

・参加者 約70人

・参加団体、企業

- オーガニックポニーファーム：おから味噌作り
- 株式会社マーサ：さつまいも堀りくじ引き
- NPO法人千葉防災士会木更津支部：防災釣りゲーム
- きさらづ健康広場：オーガニック健康食品販売

■オーガニックシティフェスティバル開催日、みらいラボブースにて多数の協力団体や地元企業と合同で開催。多数の利用者があり、各主体間の交流や市民活動のアピールには成功したと言える。

- 今後の課題、改善策

参加の母体数が大きく当日まで一度も全体ミーティングを行うことが出来なかったので来年度は企画段階から意識して進捗状況の確認を徹底したい。

2 下半期の取り組み

- 登録団体を主体とした事業展開

前回協議会での指摘を受け、上記で説明した自主事業以外でも登録団体と積極的に交流し、市民活動のアピールに繋がるような事業を開催した。

- 各方面への広報活動の強化

上半期行っていたラジオ出演、各地域情報誌、SNS 発信に加え、下半期より自主事業の広報きさらづへの掲載、千葉日報新聞への掲載。施設広報し「ラボ通信」は印刷枚数と配布エリアの拡大をして施設や各事業の広報活動を強めた。

- 対面・オンライン双方での参加促進策の導入

利用者増加を目的とした、投稿フォームでの参加申し込みを一部自主事業にて導入した。事業（イベント）参加の敷居が低減した結果、申し込みの数は全体的に上がりみらいラボの周知にも繋がった。

3 今後の課題

- 相談件数の大幅な減少

上半期や前年度に比べて大幅に件数が減少している。全体の利用数は増加傾向にあるので施設の知名度自体は徐々に上がっているはず。今後は施設の存在目的や市民活動に繋がる部分に焦点を絞って多方面にアプローチしていきたい。